

平成29年度附属練習船勢水丸業務報告

前川 陽一・中村 亨

附属練習船勢水丸船長・一等航海士

1. 平成29年度附属練習船勢水丸運航概要

平成29年度は、実習航海20航海、研究航海8航海、地域貢献等その他の航海7航海の合計35航海、計158日の航海を実施した。実習航海では442人、研究航海では103人、その他の航海では56人が乗船した（すべての乗船人数について海事教員は除く）。松阪港停泊中には、フィールドサイエンスセンター体験演習として4日間で282人の演習を実施したほか、1団体21名（三重県立水産高等学校練習船しろちどり機関科本科生、教員）の見学を受け入れた。

教育関係共同利用拠点事業では、二期目の三年目となり、単独航海では名古屋大学理学部、四日市大学環境情報学部、京都大学総合人間学部、北里大学海洋生命科学部の4大学で合計98人が乗船し、公開実習航海では上海海洋大学、県立広島大学、東京学芸大学、京都産業大学、名城大学、北里大学、名古屋女子大学、皇學館大学、中部大学の学生43人が本学の学生とともに所定の実習を行って単位認定を受ける特別聴講学生（特別聴講学生以外の学生、教職員、

その他外部乗船者など共同利用としての乗船者を含めると59人）として乗船した。

その他の航海では、高大連携事業としてハイスクールフィールドワークとして生物計測実習と環境計測実習の2航海を行い、津高校、津西高校、四日市高校、四日市南高校、高田高校の生徒および教員が55人乗船した。台風避難航海では、台風5号、18号、21号および22号の避難として合計10日間の避難航海を行った。

検査工事・一般修繕工事は、一般入札により平成30年1月17日から2月10日（工事期間1月18日～2月9日）まで大阪市西成区の株式会社ダイゾー木津川工場で実施し、第二種中間検査（竣工9年目）と、一般修繕工事として普段定繋港では実施不可能である船底部分や船体の清掃・塗装、污水管高圧洗浄、発電機関係整備などを中心に行い、実習航海や研究航海に支障が出ないように検査・整備工事を行った。

平成29年度の航海実績については、以下の表を参照していただきたい。

平成29年度 航海実績

実習航海

航海番号	種別	航海名	期間	日数	乗船者数 (女性)	備考
1703	学内	博士後期課程特別調査研究	5/15~16	2	20 (5)	
1704	公開	海洋環境調査実習	5/20~24	5	14 (5)	上海海洋大学1名 県立広島大学4名 福井工業大学2名
1705	単独	京都大学 総合フィールド演習	5/30~6/2	3	25 (9)	京都大学25名 東京学芸大学2名
1706-1	公開	陸海空・環境科学実習1班	6/6~11	6	25 (7)	九州大学4名 京都産業大学2名 名城大学1名

1706-2	公開	陸海空・環境科学実習 2班	6/11~15	5	26 (5)	新潟大学 3名 九州大学 4名
1711	単独	(単) 四日市大学 伊勢湾海洋調査実習	8/2~4	3	22 (0)	四日市大学 22名
1712	学内	環境科学~海に親しむ~	8/9~10	2	18 (10)	
1713	公開	海洋総合航海実習	8/17~28	12	11 (3)	北里大学 4名
1714	単独	(単) 名古屋大学 大気水圏フィールドセミナーⅡ※1	9/4~7	4	47 (18)	名古屋大学 27名
1715	学内	乗船実習Ⅰ※2 (第1班)	9/12~13	2	19 (6)	
1716	学内	乗船実習Ⅰ (第2班)	9/14~15	2	21 (6)	
1717	学内	乗船実習Ⅰ (第3班)	9/19~20	2	21 (5)	
1718	公開	水産生物学実習	10/3~6	4	16 (4)	名古屋港水族館 1名
1719	公開	海洋生物資源調査実習	10/10~14	5	22 (8)	中部大学 3名
1720	公開	紀伊黒潮流域圏航海実習Ⅰ	10/18~19	2	22 (15)	名古屋女子大学 12名
1721	公開	紀伊黒潮流域圏航海実習Ⅱ	10/25~26	2	26 (12)	上海海洋大学 1名 名古屋女子大学 10名 皇學館 3名
1726	単独	北里大学 海洋実習	12/13~15	3	24 (4)	北里大学 24名
1727	学内	乗船実習Ⅱ※2・海洋観測航海実習 (第1班)	2/23~28	6	22 (8)	臨時アルバイト 1名
1728	学内	乗船実習Ⅱ・海洋観測航海実習 (第2班)	3/5~10	6	22 (4)	臨時アルバイト 1名
1729	学内	乗船実習Ⅱ・海洋観測航海実習 (第3班)	3/15~20	6	19 (5)	臨時アルバイト 1名
小計				82	442(139)	

※1 往航にて本学学長及び職員ら20名乗船

※2 乗船実習Ⅰ,Ⅱは地球環境システム学コースの海洋地球環境学乗船実習も混乗で実施

研究航海

航海番号	航海名	期間	日数	乗船者数 (女性)	備考
1701	研究航海 (宮崎)	4/10~13	4	10 (3)	熊野灘海域での底カゴと釣りによる深海生物の採集および海洋観測の実施
1702	研究航海 (船)	4/24	1	0 (0)	操縦性能の確認・観測機器の試運転
1707	研究航海 (中村・石坂)	6/19~23	5	11 (3)	志摩半島沖合に生息する藻類群集の基礎生産に関する調査他
1708	研究航海 (宮崎・井須)	6/29~7/10	12	19 (4)	南方系アオリイカの資源量並びに生態調査
1722	研究航海 (木村)	11/7~11	5	19 (5)	深海性のマクロベントスおよび近底層魚類とその寄生物の採集
1723	研究航海 (前川・中村・大塚)	11/14~17	4	18 (3)	深海性動物プランクトンの分類・生態・生化学に関する研究
1724	クリティカルケア看護	11/29~30	2	11 (11)	クリティカルケア看護
1725	研究航海 (中村・石坂)	12/5~8	4	15 (9)	伊勢・三河湾・沖合での衛星データの推定精度に関する調査他
小計			37	103(38)	

その他 (一般公開, 避難, ドック)

航海番号	種別	航海名	期間	日数	乗船者数 (女性)	備考
1709		高大連携事業ハイスクールフィールドワーク 第1班	7/24~25	2	28 (6)	環境計測編
1710		高大連携事業ハイスクールフィールドワーク 第2班	7/27~28	2	27 (12)	生物計測編
		台風5号避難航海	8/6~8	3		
		台風18号避難航海	9/17~18	2		
		台風21号避難航海	10/21~23	3		
		台風22号避難航海	10/29~30	2		
		第二種中間検査及び一般修繕工事	1/17~2/10	25	1 (0)	(株) ダイゾー木津川工場
小計				39	56 (18)	
合計				158	601(195)	

本船見学

12月4日 三重県立水産高等学校しろちどり機関科本科生, 教員 21名

2. 平成29年度全国水産・海洋系学部等協議 会練習船等分科会報告

(1) はじめに

全国水産・海洋系学部等協議会練習船等分科会（以下、分科会とする）とは、練習船を持つ次に掲げる水産・海洋系大学（校）を会員として組織され、練習船等の運営並びに教育研究調査などに関する諸問題を協議し、練習船における教育研究調査の充実発展を図るとともに、練習船相互間の連絡を緊密にして管理運営の改善を促進することを目的として、年に一回、分科会に組織する各大学（校）の持ち回りで開催されるものであり、平成29年度の当番校として広島大学で実施された。

平成29年度の分科会は、平成30年1月26日（金）に広島大学生物生産学部第一会議室で開催され、北海道大学、東京海洋大学、三重大学、広島大学、長崎大学、鹿児島大学、水産大学校から各練習船の船長、機関長をはじめ、練習船乗組員や関係教職員など含め38人が出席して行われた。はじめに広島大学生物生産学部長の吉村教授の挨拶、練習船運営委員長坂井教授の挨拶の後、当番校である広島大学豊潮丸中口船長が議長に選出され4つの審議事項（北海道大学と広島大学）と5つの報告事項（東京海洋大学、水産大学校、長崎大学、広島大学）により議事が進行された。来年度の分科会については審議事項の議題4のとおり、水産大学校が当番校となり開催されることとなった。分科会終了後は、東広島市内にて情報交換会を行った。

(2) 分科会議事録

日時：平成30年1月26日（金）13:00～17:00

場所：広島大学生物生産学部第一会議室

【審議事項】

議題1. ドックの選定について

議題2. 燃料積み込み港選定について

北海道大学からドックおよび燃料積み込み港の選定に関して情報が求められた。ドックに関しては、造船所までの回航に関わる燃料代を抑えるため、距離や日数で入札業者を限定している大学がほとんどであった。燃料積み込みに関しては、学内で合わせて契約しているところが多く定繋港での積み込みが多いようであった。

議題3. LGBT（性的マイノリティー）学生への対応について

北海道大学から議題提案理由とともに、各大学におけるこのような事案の有無、対応策などの情報が求められた。LGBT学生の乗船の有無は各大学まちまちであったが、本人からの申し出が無いと気がつかないことが多く、またプライバシーの問題から事前アンケート等での把握も難しいとの回答が目立った。今後は学生からの対応要請などがあった場合はできるだけ対応するという回答が多かった。

議題4. 次回当番校及び役員について

広島大学から提案があり、以下のとおり次回当番校、幹事が決定した。

次回当番校：水産大学校

開催時期：未定

会長：鎌野忠 耕洋丸船長

副会長：秦一浩 天鷹丸船長

副会長：野田明 海鷹丸船長

幹事

北海道大学：亀井佳彦 うしお丸船長

東京海洋大学：宮崎唯史 青鷹丸船長

三重大学：前川陽一 勢水丸船長

広島大学：中口和光 豊潮丸船長

水産大学校：鎌野忠 耕洋丸船長

長崎大学：青島隆 鶴洋丸船長

鹿児島大学：内山正樹 かごしま丸船長

議題5. その他

特になし

【報告事項】

報告1. 第16回全国水産・海洋系学部等協議会 報告について

東京海洋大学から今年度5月に東京海洋大学品川キャンパスで実施された「第16回全国水産・海洋系学部等協議会」について、協議事項と承合事項、報告事項の報告がなされた。当協議会の議事録は各参加大学の承認前のため、読み上げのみでの報告となった。

報告2. 新天鷹丸について

水産大学校から新天鷹丸の紹介があった。主に機関に関する特徴、船体や観測機器に関する紹介が行われた。

報告3. 新長崎丸建造の進捗状況および今後の 予定について

長崎大学から、新長崎丸の建造状況や今度の予定について紹介があった。命名式や進水式様子が動画や、現在の建造工事の写真などが紹介された。今度の予定は、平成30年3月26日に引き渡し式、同年3月26日に竣工式および披露、同年3月31日に一般公開、同年4月4日に第一次航海出港予定であった。

報告4. 遠洋航海中の遭難船舶捜索について

水産大学校から、昨年の遠洋航海時に行った遭難船舶の捜索活動についての報告があった。時系列での詳細な資料をもとに、通報から捜索活動の開始、方法、捜索の終了までの報告があった。

報告5. 豊潮丸における寄港地での事件発生と 再発防止対策について

広島大学から、航海中の寄港地における事件

の発生と再発防止策についての報告が行われた。事件内容等は報道にあったとおりであり、今後の再発防止に関しての報告があった。

報告6. その他

特になし

3. その他

平成30年1月から勢水丸のホームページ (<http://seisuimaru.bio.mie-u.ac.jp/>) を閲覧者がより見やすいようにリニューアルした。同時に、本船の公式フェイスブック (<https://www.facebook.com/seisuimaru/>) も立ち上げ、情報発信を積極的に行うようにした。